



# 大島分場トピック

## No. 295

(旧大島分場だより)

平成 15 年 8 月 15 日

東京都水産試験場 大島分場発行

〒 100-0212 東京都大島町波浮港 18

Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383

ホームページ <http://www.fish.metro.tokyo.jp>

### 北上する?! キンメダイ・・・標識放流結果から

#### 沿岸域各県と連携した広域的資源調査が必要

#### 平成 12 年から 812 尾放流して 6 尾再捕

大島分場では、キンメダイがどこで生まれ、どこで育ち、どこを移動しているのかを明らかにするために、標識放流を実施しています。平成 12 年から 18 回、812 尾を三宅島周辺漁場で放流し、これまで 6 尾の再捕報告がありました。

静岡、千葉県等が本州沿岸域で実施した標識放流では、放流地点周辺か黒潮上流域の南から西方向の漁場でその多くが再捕されています。これに対し、三宅島周辺漁場での標識放流では、放流地点よりも北側の漁場で多くが再捕され、これらの海域のキンメダイは北側の黒潮下流域へ移動回遊する傾向があることが明らかになりました。

#### 619 日後に「<sup>やはず</sup>矢筈出し」でも再捕される

再捕された 6 尾は何れも平成 13 年に放流されたもので、そのうち 5 尾は御蔵海山<sup>みくらかいざん</sup>で、残り 1 尾は第 2 大野原海丘<sup>おおのはらかいきゅう</sup>で放流されたものです。放流から再捕までの期間が最も長かったのは、放流 619 日後の平成 15 年 7 月 3 日に伊豆半島の東側の「<sup>やはず</sup>矢筈出し」で再捕されました。

#### 沿岸域各県と連携した広域的資源調査が必要

キンメダイ資源の保護と持続的利用を図るには、産卵親魚や小型魚を保護するためのルール作りが必要です。そのためには、その裏付けとなる科学的根拠が求められます。今回、三宅島周辺海域に生息するキンメダイは黒潮下流域に移動していることが確認されたことから、今後、沿岸域各県と連携した広域的な資源調査を進める必要があります。

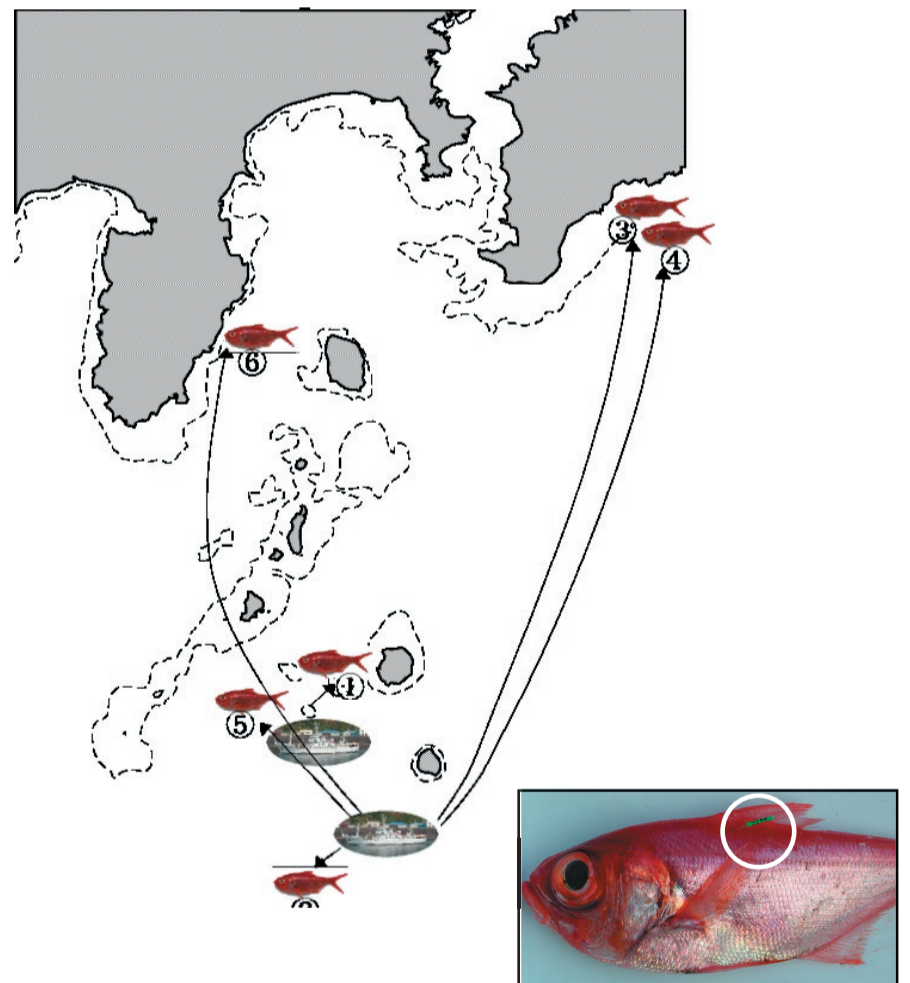


図 1 再捕記録と標識キンメダイ

表 1 標識放流キンメダイ再捕記録

	放流日	放流場所	放流尾数	再捕日	経過日数	再捕場所
1	2001年2月1日	第2大野原海丘	50	2001年3月23日	50 日	第1大野原海丘
2	2001年7月24日	御蔵海山	8	2001年10月21日	89 日	イナンバ
3	2001年10月21日	御蔵海山	30	2002年4月23日	184 日	勝浦沖
4	2001年10月22日	御蔵海山	132	2002年5月15日	205 日	勝浦沖
5	”	”	”	2003年4月27日	552 日	第2大野原海丘
6	”	”	”	2003年7月3日	619 日	矢筈出し